

IUCN 世界自然保護会議 済州島からのレポート

済州島の IUCN 世界自然保護会議に來ています。でも本会議には出席せず、東アジア・オーストラリア フライウェイの干潟に関する事案や、鄱陽湖の保全について、中国の代表団との交渉に集中します。いずれも容易に終わる議論ではありません（そういうわけで、私は第 3 日目の写真の夕食会には出席しませんでした。）

9 月 8 日、私は鳥類のセンサス例として、バードライフのクロツラヘラサギのプロジェクトのプレゼンを行いました。単にメンバーの理解を得たり、クロツラヘラサギの動向を発表しただけではなく、東アジア全域の自然保護関係者とのネットワークの構築ができたことも成果として紹介しました。また、水鳥以外の種について、生息地の保全や管理のために必要な動向に関するデータが十分ではないため、これらの種についても移動性鳥類のセンサスを長期的に行うことを提案しました。なお、このワークショップは、移動性水鳥のモニタリングシステムを拡大していくという、韓国側の動向を支援するために開催されました。

9 月 9 日は渉外グループ会議がありました。そこでは中国側と韓国側から出された黄海に関する問題について長い討議が行われ、会議は 2 時間半にもおよびました。我々はなんとか全ての当事者（中国と韓国の政府代表団、および沿岸鳥類の保護や干潟の干拓中止をもとめる自然保護団体ら）に受け入れられる草案へと修正しました。

なお、今回の本会議で、IUCN の新しい議長の選挙が行われます。その候補者の方たちは、8 時 45 分からのバードライフ代表団による朝礼に参加しています。

バードライフ・インターナショナル・アジア・ディビジョン
主任研究員 シンバ・チャン

